

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立和田中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0001
東京都多摩市和田 234 番地

E-mail fukuda-masumi@city.tama.tokyo.jp
Website http://schit.net/tama/jhwada/

幼児児童生徒数 男子 204 名 女子 188 名 合計 392 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

国際理解教育を学校の理念とし、ESD を「2050 年の大人づくり」と捉え、ESD の実践を通して「国際社会を生き抜く、グローバル人材育成」を目標とした。

①国際理解に関わる活動

1 学期は、1 年生で、2 学期は 2 年生で、3 年生は 3 学期に、JICA の方をお招きして、青年海外協力隊で体験したお話を聞き国際理解の一助とした。

②国際交流に関わる活動

あしなが募金事務局から、留学生を招いて、本校の生徒は日本文化を英語で紹介し、次の時間には自分の国について英語で紹介してもらい交流活動を行った。

③英語力の向上に関わる活動

(1) 朝プロジェクト

地域の方を講師として迎え、英語検定の第 1 回、第 2 回の前に 12 クール づつ朝の 7 時 30 分から 8 時 10 分までの 40 分間、英語検定に向けた取り組みを行った。講座は 5 級、4 級、3 級、準 2 級、2 級の 5 講座とした。

(2) 昼プロジェクト

地域の大学から留学生を招き、給食の時間から昼休みまで約40分間英語で自由に会話をする機会を、年間203回行い。自分と違う文化を持つ人たちとも臆せず英語で話せる力を身に付けさせた。

(3) オンライン英会話

タブレット端末を活用して、フィリピンにいる方とマンツーマンで30分間英語で会話を行った。



① の写真



② の写真



③の1写真



③の2写真



③の3写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 朝の時間)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・英検過去問題, タブレット端末

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとして持続発展教育・ESDを推進し、地球的視野に立った様々な課題を相互に関連付けるとともに、自らの暮らしや地域の課題と結び付けて考え、他者と協力・協働しながら主体的に行動する生徒を育成する。特に、和田中地域支援本部と連携し、「和田中・地域未来塾」の活動を活性化させ、国際理解教育を推進するとともに、生徒の問題解決能力や主体的に活動しようとする態度を育てる。社会を生き抜く力を育むことを目指し、特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、言語活動を通して思考力・判断力・表現力等を高めるとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

特色ある教育活動を推進する中で、ミドルリーダーの学校運営力を向上させる。「グローバル人材育成のための国際理解教育の推進」を学校経営方針に掲げ、プロジェクトチームを立ち上げ、推進させる中でミドルリーダー層の学校運営力向上を図り、組織力を高める。主体的・対話的で深い学びを実現する組織的な校内OJT研修を推進する・意図的・計画的なOJT研修グループを編成し、目的や課題を明示し、職層間の対話を重視した研修により、全教員の意欲の向上を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校運営連絡協議会での評価や、全校生徒、保護者への学校評価アンケートの項目に、ユネスコスクールとしての活動の評価項目を入れている。そのことによって明らかになった成果として、生徒が主体的に考え行動する取り組みが多くみられるとあった。また、英検等の結果から英語力が年々向上しているともあった。課題としては、学校全体としての取組というよりは、一部の生徒の取組との見方もあった。学校全体としての取組の意識を高めるために地域や保護者にも情報を多く発信する必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校だよりやホームページに掲載したり、地域の会合で周知したりしているが、取り組みは理解していただけてはいるが、参観までには至っていない。タウン誌などから取材依頼があり、国際理解教育を推進していることは地域の方々に広がってはいる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

JICA(国際協力機構)やNPO法人等と連携した交流活動や、オリンピック・パラリンピック学習読本等の活用を通して、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。また、地域未来塾を活用し、地域支援本部と連携して取り組む「朝プロジェクト」や近隣大学と連携し、留学生が給食や昼休みの時間に生徒と交流する「昼プロジェクト」を活性化させることにより、外国人とコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を育成する。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

このことにはまだ取り組んでいない。今後、どのようにして連携していくか検討中である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

教員の授業改善が図られている。アクティブラーニングの実践により主体的・対話的で深い学びが行われ、生徒の主体的な学びが形成されつつある。その成果が年度末に行われる、総合的な学習の時間の発表からよく分かる。保護者や地域からも、好評であり年々、表現力・プレゼンテーション力が向上している。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

国際理解教育を学校の理念とし、ESD を「2050 年の大人づくり」と捉え、ESD の実践を通して「国際社会を生き抜く、グローバル人材育成」を目標とした。

- ①国際理解に関わる活動—JICA を招いての講演会（全学年）
- ②国際交流に関わる活動—あしなが国際交流（全学年）
- ③英語力の向上に関わる活動
 - (1) 朝プロジェクト（英検講座）
 - (2) 昼プロジェクト（留学生交流）
 - (3) オンライン英会話（フィリピンの方とタブレット端末で英会話）
 - (4) 英検準 1 級、2 級対策講座（留学生との会話）
 - (5) テレビ英会話（インターナショナルスクールとの交流）
 - (6) G-TECH による英語力測定（ベネッセとの連携事業）